

## 2015年年頭挨拶 [要旨]

三菱化学物流株式会社  
取締役社長 石川 甚秀

当社が一昨年の4月にスタートさせた中期経営計画「MCLC APT SIS 15」は、この4月に最終年度を迎えるが、目標を達成するためには、既存事業の維持拡大、新規顧客の獲得はもちろんのこと、全員が危機感を共有し、固定費の削減など更なる合理化・効率化に注力していかなければならない。そこで、重点施策である3つのG、すなわち「Gemba-ryoku」「Group」「Global」を中心に、私が考えていることをお伝えしたい。

### 【Gemba-ryoku】

昨年は、かねてから検討を進めてきたJR貨物専用枠の運用が7月から開始できたことや、内航船団の整備についても、12月に“菱心”という500トンのケミカル船を更新した1000トン積載の“菱永丸”の進水式を終え、2年前から合わせると4隻のケミカル船を更新してきつつある。また次期物流システムである「AJIOS」の開発プロジェクトがスタートした。今年はこのようにした施策をさらに推し進め、当社の物流全体の競争力を高めていく必要がある。

人材育成についても、化学品物性教育をはじめとする各種教育を実施したほか、女性活躍推進プロジェクトを発展させ本社人事部にダイバーシティ推進グループを設置するなど着実に人材育成の取組みを強化してきたが、今年もまさに、一人ひとりの現場力を高めていく施策を実施していきたいと考えている。

### 【Group】

MCHCグループにおいて、昨年は大きな動きがあった年となった。まず昨年4月にヘルスケア関連事業会社である生命科学インスティテュート(LSII)社が発足し、更に11月には大陽日酸グループがグループの一員となった。今後、MCHCグループの物流を担う会社としてシナジーを発揮していきたいと思う。

### 【Global】

今年シンガポールの現地法人MCL Logistics Asia社が設立されてからちょうど20年であり、当社の海外進出20周年という節目の年を迎えることになる。この20年間で当社グループが海外で培った経験を今こそ活かし、世界

中で KAITEKI 物流を実現していきたい。

### 【将来に向けた布石】

当社は「MCLC APTSYS 15」最終年度を前に、着実に足元固めを行ってきたが、一方で、当社あるいは日本全体の5年後、10年後を見据え、将来の当社の方向性を探っていくためにプロジェクトを発足させた。組織横断的なメンバーで議論・検討を行い、先月その最終報告会が実施されたが、この結果を、来期予算への折込みや次期中期経営計画に向けた検討において有効に活用していきたいと考えている。

### 【安全 QA、コンプライアンス】

安全 QA に対する意識を高めていくためには、「Know-Why」（ノウホワイ）を身に着けることも大切だ。日常で当たり前と考えている仕事の仕組みややり方をもう一度見直し、自分の仕事を「誰のために」「何のために」行っているのかを自問自答し、疑問に思ったことは周囲の皆と議論しながら互いの情報、知識を共有していくと、そこには必ずと言って良いほど気づきや改善が生まれてくる。これに加えて、MOS 指標も活用しながら仕事を可視化・定量化し、仕事の質を高めていきたいと思う。

一方、昨年生じたコンプライアンス抵触事例の特徴は、情報共有や連携の不足であったり、業務の境界や役割分担が不明確であったりといった、接点業務に問題があるものが多かったように感じる。

今年は仕事において、積極的に、情報の共有化、価値観の共有化を図り、役割分担を明確にして全員参加で取り進めていきたい。我々は、三菱化学物流社という組織で仕事をしている訳であり、その組織の中で、皆で助け合って、注意し合って、協力し合って、安全 QA・コンプライアンスで信頼される化学品物流の会社という地位を確固たるものにしていきたいと思う。そのためには、遠慮したり、失敗を恐れて萎縮せずに「バカの壁」を破る勇気と行動力で前向きに対処していこう。

### （終わりに）

私たちの仕事は、荷主様から製品というバトンを託され、それを安全・確実にお客様のもとへお届けすることであると考えている。つまり物流、特に化学品物流という仕事は、重い責任があり緊張感が求められる一方で、使命感・やりがいを感じられる仕事でもある。自分の仕事は荷主、ひいては社会に貢献しているという意識を持ち、「想いの共有」を図り、「内なる炎に火をつけ」て、「打ち込め魂、仕事の上に」、一日一日を新たな気持ち[日新]で明るく楽しく元気にこの一年を過ごしていこう。

以上